

会 議 録

会議の名称	第1回富士見ガーデンビーチ運用に関する市民検討会議
開催日時	令和元年9月17日(火) 19時30分～21時30分
開催場所	中央図書館 集会室
出席者	大竹ミイ子氏、押田一氏、加藤連治氏、神谷和義氏、河村明彦氏、古賀正信氏、小林正剛氏、瀬戸口幸子氏、長ヶ原美博氏、松原ふみえ氏 事務局：生涯学習課（深迫課長、高見副課長、坂本主査、加藤主任）
欠席者	坂田紀子氏
I 開会	
II あいさつ 生涯学習課長	
III 確認事項	
1. 要領の確認 本会議の設置要領について事務局から説明。	
2. 座長の選出 互選により、加藤連治氏を座長とする。	
3. はじめに	
4. 全体スケジュールについて	
5. 現状把握	
6. 運営の歴史	
7. これまでの指定管理者の収支状況	
8. これまでの入場者数	
9. これまでの維持管理費	
10. 今後の費用予測について	
11. 市民プールに関する県内自治体アンケートの結果	
12. 入場者1人あたりに要する経費	

13. 公共施設開館日1日当たりに掛かる経費

1～13まで、事務局から資料に基づき説明。

【質疑応答】

参加者：ガーデンビーチの管理棟は耐震工事を実施しているのか。

事務局：建設時期を踏まえると、法律的には耐震工事が必要な建物ではない。ただし、老朽化はかなり進んでいる。

IV 意見交換会

参加者：夏だけの施設ではなく、隣にある環境センターの余熱を利用し、年間を通して利用できる温水を使った施設を考えることはできないのか。

参加者：ガーデンビーチ開業当初は、余熱を利用した温水プールにする、といった話もあったように記憶している。

参加者：屋内の温水プールを建設する場合にかかる費用も積算してもらいたい。

参加者：敷地内のレイアウト等の問題もあると思うが、子どもも大人も利用できるような屋外と屋内を融合させたような施設はどうか。例えば50mプールの周りを壁で囲い、夏は壁を開放して子ども向けの屋外プールに、冬場は屋内プールとする等、幅広い年代を呼べるような施設が良いのではないか。

参加者：環境センターの余熱利用について、プールの水を温めるには熱量が足りないという話だが、15m2レーンの歩行プール等、小さいサイズの施設を作るといった考え方もあるのではないか。年間を通して高齢者が毎日通えるような施設を考えてほしい。

参加者：ガーデンビーチを新しいプール施設にした場合、小・中学校の授業でその施設を使用することは可能なのか。また、プールだけでなく必要に応じて複合・多機能施設も検討していくのが良いのではないか。

参加者：公共施設のプールを授業で利用することについては、教育委員会の判断による場所なので個人の意見は差し控えたい。

また、各学校のプールは夏休み中でもできる限り子どもたちに開放しているが、ここ数年は猛暑による熱中症の心配もあり自重している状況である。学校プールを市民へ開放すること自体は可能かもしれないが、設備管理や運用面での課

題を考えると、教育委員会としても簡単には判断できないのではないかと。

参加者：年間を通じて使用できる温水プールがあることは理想だが、費用面が心配である。富士見市の財政を考えた時に建設費があまりに高額なのではないかと。

参加者：朝霞のわくわくドーム等、近隣温水プールの年間収支状況を調べてほしい。

事務局：調査する。

事務局：現在のガーデンビーチ運営を考えると、猛暑による熱中症の危険性や、設備リニューアルの必要性が生じている。今後もこのままの形での運営でよいのか、現状についての意見もいただきたい。

参加者：暑さのせいでプールのお湯になってしまい、のぼせてしまうという利用者がいた。プールサイドの床も熱く、裸足で歩くことができない。

参加者：建設費用は高額になるかもしれないが、営業日1日当たりの経費といった視点は必要だと思う。健康増進の面を考えると、冬でも利用できる施設の方が良い。

参加者：ガーデンビーチ内の流水プールやスライダー等、各施設の稼働はどのような状況なのか。完全リニューアルではなく稼働状況を踏まえて施設を縮小する、縮小して稼働率を上げるという考え方もあるのではないかと。

事務局：プールの建設業者によると、集客のためには、流水プール、造波プール、ウォータースライダーの3つがあると良いとのことだった。

参加者：ガーデンビーチもウォータースライダーは人気がある。並んでいることも多い。

参加者：温水プール施設では、川越のなぐわし公園ピコア等、開館前から利用者が並ぶくらい稼働している施設もある。

事務局：来年度、45億円かけて環境センターの炉の改修工事が予定されている。環境センターが築50年となる15年後を見据えての工事となる。工事計画が動き出していることを考えると、余熱利用の方向を検討することは難しいと考えている。

参加者：東松島市には矢本駅前に「ゆふと」という複合施設がある。温水プールが施設内にあるが、余熱利用の施設ではない。震災で大変な被害を受けた自治体もこのような施設を運営・維持している。余熱を利用しない温水プールという考え方もあるのではないかと。

参加者：年間の維持管理費に3000万～5000万円程度掛かっているが、この金額がガーデンビーチの2か月間の運営のために税金から支出されているというこ

とか。

事務局：その通りである。

参加者：西武園等、冬の期間は釣り堀として使用しているプールもある。

参加者：以前、群馬県にあるゴミの焼却場を視察したことがある。隣に余熱を利用した温水プールがあったが、大赤字とのことだった。

参加者：川越水上公園は施設が充実している。その分、入場料も高い。

参加者：県の施設の場合、設置場所の自治体に費用負担は発生しないのか。例えば上尾の県営プールは上尾市民の利用が多いのではないか。

事務局：県内自治体へのアンケート結果を見ると、どの市町のプールも基本的には赤字施設であると捉えている。ガーデンビーチの入場料はオープン時から変更されていない。

IV その他

次回会議は12月に開催予定。

市民アンケートの集計結果等を踏まえて意見交換をしていただく予定。

V 閉会